

■ 市長から市民のみなさんへ

市長 白井博文



■ 山陽オートの「走り初め」

1月3日、山陽オートでは、地元企業後援の新春初レースが行われ、入場者へのあいさつと表彰式に出席しました。オート業界を取り巻く環境はことのほか厳しく、苦しい経営が続いています。最近、経営健全化に向けて、JKA（かつての日動振）、選手会、施行者3者による構造改革が実施されていますが、何とか効果が出てくれるのを待つばかりです。

そうした中、山陽オート所属の選手会では、毎年、約200万円の寄附を続けてくれ、総額はすでに1,000万円を超えました。本市ではこれを基金化しています。また、運営の委託先である日本トーター(株)から受け取る収益保証（1年に1億1,000万円）のうち、毎年、約1,000万円を地域公益事業として、公民館など市内全域にある公共施設の便所の洋式化などに充てています（残額は山陽オートの赤字の補てん等）。

1月3日には、通算優勝回数が150回に達した山陽オート所属の小林選手の表彰式もありました。全国にオートレーサーは約460人。そのうち150回に達した選手は僅かに2人。そのうちの1人ですから、見事な偉業達成というべきだと思います。

「小林選手、おめでとうございます。」

■ 消防出初式に出席して

昨年の4月から宇部・山陽小野田消防局の本格実施が始まり、これまで以上に消防の活躍が

期待されていますが、そこに勤務されるみなさんは、宇部・山陽小野田消防組合の職員で、普通「常備消防」と言われています。一方、職員ではありませんが、民間人として本業のかたわら地元の消防活動に従事してくれているのが、消防団のみなさんで、こちらは「非常備消防」と言われています。山陽小野田市には消防団が1つあり、小学校区毎に消防車等が配備された消防分団が1つずつ（厚狭のみ2つ）あって、有事に備えてくれています。団員は日ごろから、本業の合間をぬって厳しい訓練を重ね、夏には分団毎の消防操法を競う「消防操法大会」が実施されるほか、新年を飾る市の行事として、恒例の出初式を開いています。

今年も1月6日、市民館前で平成25年の出初式が実施されました。威風堂々の観閲行進のほか、伝統の古式行事（木遣・はしご乗り披露、腕用ポンプ・鈴割り演技）も披露され、詰めかけた観衆にはあたたかいぜんざいも振る舞われました。その後、市民館文化ホールで式典があり、恒例の行事が1つ終わりました。

昨年12月、これまでの永年にわたる活躍が認められ、山陽小野田市消防団に、消防団として最高の荣誉といわれる日本消防協会の特別表彰「まとい」の授賞が決まりました。今回の受賞は、全国2,250ある消防団のうち、僅か10の消防団だけとか…。嬉しいニュースですね。